

曩に、今回の罷業突発の因由を申述べましたが、今度は何故に工員の要求が容れ難いかを披陳したいと存じます。四月十日に要求の提出せられた際、その理由とする所は (1)野田の労働賃金が他に比して低率なること (2)野田の労働者が生活難に苦しんでゐること (3)會社の利益が不景氣の折柄にも拘はらず多きこと等で、大正十二年の爭議解決以來、希望乃至警告として、之等の條項を提出したのであるが、會社で少しも實現する模様がなないので、こゝに要求といふ形式を取つたといふ事でありました。

然し乍ら、會社では、色々調査もし、研究もした結果、その要求には決して應じ難いと断じました。その理由は 第一に野田の勞銀が安いといふけれど、大方の具眼者は、決して、その然らざるを御氣附になるてありません。現在本社工員の實収入は、男女工一日平均二圓十五錢、定額日給一圓八十六錢に及びます。就中本年一月の如きは、平均實収入一日二圓二十七錢に當つて居ます。然もこの中には、かなり多數の老年工及幼年工を含んで居ります。然して、労働時間は、早い者は二時間半、稀に長く居る者でも六時間、平均僅かに四時間位(嚴密に云へば四時間に充たざるべし)に過ぎません。従つて、労働時間に對する實収入の割合はよし労働の質が申分なしとするも、非常に高いもので工員諸子の云ふ所は何等理由を爲さないものであります。

第二に野田の労働者が生活難に苦しむといふ事ですが、本社には蹴出し作業といふ歩増制度があり、之によつて収入の増加を圖る事が出来るので、會社では、しきりに之を勸めるにも拘はらず、工員は、之に應じません。のみならず、實際の生活振を目撃されて居る町及四隣町村の方々は、果して生活難かどうか、改めて申し上げるまでもなく御了解の事と信じます。

一体、天然の資源にも余り恵まれなないし、産業の組織も比較的幼稚な我國では、年々百萬に垂んとする人口増加があるゆえ、誰人でも、安易な生活を營み、所望の境遇にあり得るものでない事は自明の理であります。今や、國民は、お互に辛棒し、相俚に、勵まし合ひ、困苦欠乏に堪えて、財界の復興、國力の伸展に鋭意奮勵すべきであり、反省を怠り他を顧みず、飽くなき慾望に驅られて、只管に求めて止まざるの態度は、断じて排さなければなりません。夫は、社會の平和を攪亂し、國力の伸張を阻害し、その禍、まことに測るべからざるものありと信ずるからであります。考へて、茲に至る時、會社は、斷乎たる態度を以て拒絶致す外ありません。

第三に會社の利益が多いといふ事ではありますが、成る程、本社は、この不況時に際しても損は致して居りません。然し、決して工員の言ふ如き利益は收めては居らない。夫は、醬油の市價や一般物價指數を見れば、直ちに判る事で、今更吹々を要しません。のみならず、會社がかゝる折にも拘はらず、損をしない事は、之れ決して、工員の力のみを以て然るのではない。多年拮据經營の結果、今日の地盤を築き上げたのでありまして、之を築くについては、實に涙ぐまじき奮闘を致して参りました結果に外なりません。この點、必ずや識者の御共鳴を信ずるもので御座ります。

第四に団体協約承認の申出は、先方の云ふ所によれば、夫は、労働總同盟の會員のみを使ふべしとの事ですが、本社に對し六七ヶ年に彌り、總同盟會員の人々が證明して下さつた經驗に徴して、今のところ断じて左担し能はぬ處であります。現に第一乃至第十六工場は労働組合員であり、その外は全部非組合員であります。この兩者の産業人、社會人としての適否を比較、對照して見て、組合側の要求を断然拒絶する明確なる理由を有します。要するに、工員の要求提出の理由は十分なる同情を以て考察するも、殆んど全く酌むべき余地なきものであります。

更に、本社作業の實況は前陳の通りなる一面作業場に在りても、監督者の指揮命令に服せず、他所の爭議應援の爲め、在場僅かに二時間内外にして退場する者さへある等、自ら輕んずる甚しき所爲を敢てして顧みず、心あるものをして長嘆痛憤せしむる實狀であります。私共は、必ずしも、工員諸子に向つて君子人たるを望む者では御座るませんが、殆んど額に汗せずして食はんとするかに見ゆるこの態度は、斷々乎として排除すべきものと信じます。去る大正十二年以來、本社の労働状態は實に斯くの如き不本意千萬なものであります。然し乍ら會社では、常に忍従して鋭意改善に努力したのでありますが、工員は會社の申出や計畫は一つも素直に受入れないで、いつも事を複雑にして居ります。夫は舊醸造工場に於ける就業状況を御覽下さつた方々の夙に御了知の事と存じます。

噫! かくの如くして俊め能はずせば、何處に企業經營を策する事が出来ませう。如何にして工場の管理を満足に行ふことが出来ませう。否々、何處に産業立國の實を求むる事が出来ませう。元來、一定の職業に従事する者は同時に一定範圍の義務を承認し、社會的義務意識を了得しなければならぬ。彼の人々は、口を開けば、社會の改良を唱へ、事業の發展は吾々の労働によつてのみ成し能ふと叫ぶ。何ぞその言ふ所と行ふ所の矛盾の甚しきや! かくの如きは、實に痴人夢を語るご一般なりと評さるるも全く陳辨の餘地御座いますまい。

今や、我國は往年の大震災火災に加へて、過般の經濟國難の禍難を蒙り、創夷深くして、容易に癒すべくもありません。國難は、困苦に堪え、欠乏を忍んで、和衷戮力、財界立直しと國力更長とに邁進すべきであります。然るに、工員